

イベントスケジュール

オープニング 参加無料 やかげ西町イベント広場

8月20日(木) 16:00～
安全祈願祭、石割式を行います。参加作家の過去作品の紹介や、今回の作品プランの発表も行います。

石彫公開制作 見学無料 やかげ西町イベント広場/やかげ町家交流館南/アウトドアヴィレッジやかげ

8月21日(金)～9月2日(水) 8:00～18:00 ※8月27日(木)休
(最終日14時まで)
機械工具を使用せず「座」をテーマに作品を制作します。気軽に話しかけてください。

のみぎり体験 有料 やかげ西町イベント広場

8月21日(金)～9月1日(火) 9:00～17:00 ※8月27日(木)休
ノミと石頭を使った石彫体験ができます。
期間中石屋さんの「気まぐれワークショップ(有料)」開催(不定期開催)。

小作品展 見学無料 矢掛ビジターセンター間屋

8月21日(金)～9月2日(水) 9:00～17:00
ザ・のみぎりズム2026参加作家の小作品展です。

クロージング 参加無料 やかげ西町イベント広場

9月2日(水) 17:00～
完成した作品をやかげ西町イベント広場で披露します。

矢掛まちなみ石めぐり-座する水石と石彫の軌跡展- 見学無料 矢掛商店街周辺

9月4日(金)～9月27日(日)
岡山県の「文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業」として、
ザ・のみぎりズム2026で制作された作品と矢掛石(水石)の展示をします。
期間中「石の見せ方飾り」のワークショップも開催します。



文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業

2026.9.4fri-9.27sun

矢掛まちなみ石めぐり

一座する水石と石彫の軌跡展

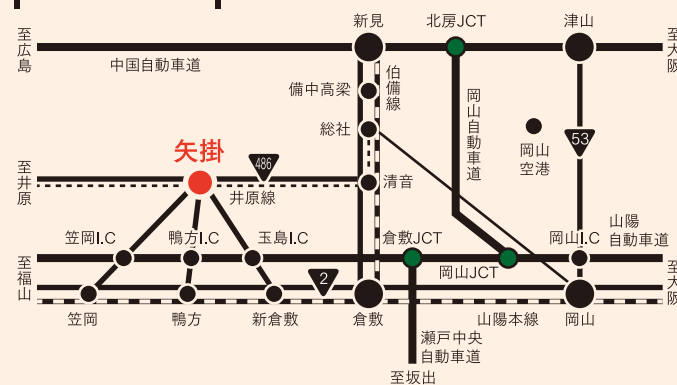
会場: 矢掛商店街周辺

見学
無料

手技によって命を吹き込まれた「現代彫刻」と、
幾星霜もの歳月が形作った「水石の歴史」。新旧の石が持つ豊かな魅力を、
まちなか散策とともに体験していただける特別な期間です。

ACCESS

交通アクセス



- ・山陽自動車道鴨方ICから約20分/玉島ICから約25分/笠岡ICから約30分
- ・岡山駅から伯備線で清音駅乗換 井原線で矢掛駅まで約50分
- ・福山駅から福塩線で神辺駅乗換 井原線で矢掛駅まで約50分
- ・笠岡から井笠バスで約45分

広域マップ



会場マップ



- やかげ西町イベント広場
- やかげ町家交流館
- 矢掛ビジターセンター間屋
- アウトドアヴィレッジやかげ

・石彫公開制作
・のみぎり体験

・石彫公開制作

・小作品展

・石彫公開制作

手彫りのリズムが響く、矢掛の夏。「座」をテーマに、作家とふれあい、石と出会う2週間。



機械はおやすみ
ぜんぶ手仕事

見学
無料

2026.
8.21fri-9.2wed
THE
NOMIGIRISM

主催: のみぎりズム実行委員会
共催: 一般財団法人矢掛町観光交流推進機構/一般社団法人やかげまるごと商店街振興会
協賛: インヤマユエン合同会社/井上石材有限会社/小野石材工業株式会社/株式会社共生/クラシキ機工株式会社/有限会社佐伯文具店/
坂川建設鋳業株式会社/医療法人簡井医院/JA晴れの国岡山/美男と野獣の会/株式会社平野鐵工所/富士ベークライト株式会社/
株式会社二葉観光運輸/株式会社三好組/株式会社やかげ宿/矢掛美環産業株式会社/矢掛放送株式会社/山野洋之助 (50音順)
後援: RSK山陽放送/RNC西日本放送/FM岡山/FMくらしき/OHK岡山放送/岡山県/岡山県教育委員会/吉備学会/KBS瀬戸内海放送/
月刊タウン情報おかやま/山陽新聞社/中国新聞備後本社/TSCテレビせとうち/矢掛町/矢掛町教育委員会/レディオモモ (50音順)
協力: こぶな隊

お問い合わせ: のみぎりズム2026実行委員会事務局(やかげDMO)
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛1989番地 矢掛ビジターセンター間屋内 Tel:0866-83-0001

岡山県・矢掛町

9名の彫刻家による
公開制作

ザ・のみぎりズム[®]
2026

会場 やかげ西町イベント広場 / やかげ町家交流館 / アウトドアヴィレッジやかげ / 矢掛ビジターセンター間屋

9名の彫刻家による公開制作

ザ・のみぎりズム[®]2026

ザ・のみぎりズム

「ザ・のみぎりズム」とは、作品テーマの「座」、制作スタイルの「のみぎり」、そこで生まれる「リズム」、そしてコミュニケーションを大切にする「イズム（主義）」を表すプロジェクトの名称です。今回は2022年に引き続き第3回目の開催となります。

このプロジェクトでは、作家が矢掛町に滞在し公開制作を行います。主な特徴は、学生も含めた若手作家と、中堅・ベテラン作家の招聘。人通りの多い町中での公開制作。機械工具を使用せず作品を仕上げる（基礎加工を除く）。町内産出の白桜みかげと備中青みかげを使用。期間中を通した石彫体験コーナーの開設。これらにより、世代を超えた作家や鑑賞者との密なコミュニケーション、芸術・石彫に対する認知・興味の拡大、芸術家支援を試みます。どこにでもいるような若者や中年が、石を彫って世界で一つの「ザ」を創造しています。芸術や芸術家は特別でも難解でもありません。気軽に話しかけ、石に触れてください。作家や作品が皆様に愛され、このプロジェクトが、皆様に求められ矢掛の「リズム・イズム」として根付く事を望みます。

のみぎりとは

「のみぎり」の文字を見ると、一般的に時候の挨拶「～のみぎり」を連想するかもしれませんが、しかし、彫刻家や石材業界の人の多くは、「ノミ切り」を思い起こします。これは、石をノミで彫る行為や、加工における仕上げの事を指します。機械工具が発達する以前は、この技術により加工する他ありませんでした。石の彫刻作品において、基本的かつ重要な技術のひとつですが、時間と体力を要する事などから、熱心に指導する芸術・美術大学は少なくなっています。また、石彫家の中でも「ノミ切り」を多用する作家は少ないと言って良いでしょう。石材業界においても、その加工の大部分を国外に委託するようになって久しく、「ノミ切り」をはじめ高い技術を持った職人でも、それを活かしきれなくなっています。話は戻りますが、時候の挨拶の「みぎり」は「砌」と書くそうです。語源を辿ると意味はいろいろありますが、石を採石する場合も「石切り場」と呼ぶの

で、ただならぬ深い縁を感じます。晩夏のみぎり、石と対峙する彫刻家の姿に目を向け、心地よい槌音に耳を傾けて、作品制作の過程をお楽しみいただければ幸いです。

石彫シンポジウム

一般的な「シンポジウム(symposium)」は、特定のテーマについて、立場や意見の異なる専門家を数名呼び、進行役のもと、聴衆の前で公開討論を行うものです。一方、「彫刻シンポジウム」は彫刻家が特定の地に集まり、寝食を共にしながら、コミュニケーションを深め、一定の期間作品を公開制作する事を指します。完成作品はその地域に展示、あるいは恒久的に設置される事が慣例となっています。

1959年、オーストリアの彫刻家カール・プランテル氏によって発案された彫刻シンポジウムは、サント・マルガレーテンにおいて、欧州7ヵ国11名の彫刻家を招聘し、世界で初めて開催されました。そしてそれは、センセーショナルなイベントとして、強い反響と関心を呼び、参加者を核とし、瞬間に世界中に広がりました。日本においても、1963年神奈川県の実鶴で東京五輪のプレイベントとして、「世界近代彫刻シンポジウム」が海外6名、国内6名の彫刻家を招聘し開催されました。その後、景気の後押しや文化振興の高まりなどから、各地に拡散していきました。特に石材を素材とした「石彫シンポジウム」が数多く開催され、作品は開催地に野外彫刻として恒久設置されて行き、彫刻公害という言葉が生まれる地域も出るほどでした。しかしながら、日本経済の停滞と期を同じく、彫刻シンポジウムは少なくなりました。経済のみならず、彫刻作品に対する時代のニーズが変わったとも考えられます。現在、継続的に開催されている日本国内の「石彫シンポジウム」は少なく、参加者も数名と小規模となっています。

このプロジェクトは、彫刻シンポジウムの原点を顧みつつ、「石彫シンポジウム」或いは作家や作品の在り方を問い直す事、コミュニケーションにより生まれる発見・創造などが、それぞれの作家の新たな一歩となるきっかけになればと企画・実行しています。

のみぎりズム実行委員会 委員長 松村晃泰



白桜みかげ

約6600万年前の中生代白亜紀末にマグマが冷却凝固して生まれた花崗岩（みかげ石）で、矢掛町内田の大倉山のふもと、下には蜚舞う美山川が流れる山あい、江戸末期ごろより静かに採掘されています。日本、そして海外で産出される良質な花崗岩の中でも、有数の耐久性を持つ、頑固で素直な性格の石で、国内外で建築や彫刻など、広い用途で使用されています。白桜みかげの由来は、薄紫の石英のキャンパスに、白長石が白桜の花びらが風に舞うようにみえることから名づけられました。決して華やかではありませんが、凛とした芯のある白みかげ石です。

井上石材有限会社 井上 太郎



備中青みかげ

日本国内では矢掛町にしか存在しない、黒味がかった青緑色の石で、原石の形状は玉石。吸水率が低く水はけが良い、堅くてねばりのある特徴は、長い年月風雨にさらされても光沢を失わず飽きのこない美しさがあり、芸術家の方に好まれる多くの作品が生まれています。主に高級墓石材として、それ以外にも、土木、建築、記念碑、歌碑、オブジェ、その他石工事など、様々な用途に使われています。江戸時代、町中を流れる小田川の対岸から山陽道の旅人を静かに見守り続けてきた石であり、岩石名も閃緑岩（せんりょくがん）なので、大願成就の戦力となり、手にした方々の幸せを見守る石となるようお願いを込めて採石しています。

小野石材工業株式会社 小野 純子



参加作家



岩村 俊秀 IWAMURA Toshihide

1966 兵庫県生まれ 大阪府在住
1989 大阪芸術大学芸術学部専攻科 卒業
1992 笠岡石彫シンポジウム(岡山県笠岡市)
2004 NHK連続ドラマ「てるてる家族」記念モニュメント制作
2008 茨木市市制施行60周年記念
元茨城川緑地彫刻コンクール 大賞受賞
2018 World Snow Festival 2位受賞(スイス グリンデルワルド)
2025 石見銀山彫刻小品展(島根県)



岩本 依路 IWAMOTO Ibuki

2000 神奈川県生まれ 広島県在住
2025 広島市立大学大学院造形芸術専攻彫刻研究領域 修了
2023 アジア芸術系大学交流展 in 沖縄
彫刻の五・七・五 2023(沖縄)
2024 三都半島アートプロジェクト 2024 装飾と山化粧(香川)
市民美術ウィーク 白市町家美術館(広島)
2025 くとやま芸術祭(和歌山)
2026 平和大通り芸術祭(広島)



久保 極 KUBO Kiwame

1956 大阪府生まれ 岡山県在住
1978 フィレンツェ国立美術アカデミア彫刻科 卒業
2012 岡山芸術回廊 つながる景色 後楽園(岡山)
2017 岡山現代彫刻の断片 奈義町現代美術館('19)(岡山)
2021 矢掛石彫なんそれ展(岡山)
2023 万成石50の表現(岡山)
2024 個展スペース・ヴェーネリ潤風会健康管理センター(岡山)



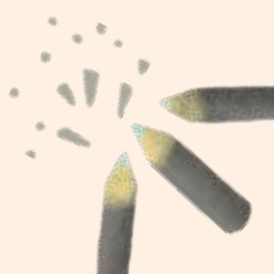
タシロハナ TASHIROHANA

2003 東京都生まれ 石川県在住
2026 金沢美術工芸大学大学院彫刻専攻 修士課程2年在学
2023 JOSHIBI PORTRAITS展
女子美祭2023
2024 石彫/学内個展「飼うということは〇〇」
絵画/個展「Mini Forest」
女子美祭2024



星 花 HOSHI Hana

2004 福島県生まれ 山形県在住
2026 東北芸術工科大学美術科彫刻コース 4年在学
2025 グループ展「彫発」悠創の丘(山形県)
2025 2人展「空の星」やまがたクリエイティブシーターQ1(山形県)
2025 第79回福島県総合美術展覧会 彫刻の部入選
2026 グループ展「すこし、遠回り」古民家 Heso(山形県)



松村 晃泰 MATSUMURA Teruyasu

1974 京都府生まれ 岡山県在住
1999 大阪芸術大学大学院(彫刻) 修了
2007 第1回国際彫刻シンポジウムロルダン('14)(アルゼンチン)
2016 ザ・のみぎりズム2016(企画・参加)('22)(岡山県 矢掛町)
2021 松村晃泰展・視線の行方-(岡山市 天神山文化プラザ)
2023 第50回岡山市文化奨励賞 受賞
2024 岡山市市民栄誉賞記念トフィー 制作('25)



皆川嘉孝 MINAGAWA Yoshitaka

1996 秋田県生まれ 石川県在住
2023 金沢美術工芸大学大学院彫刻専攻 修了
彫刻の五・七・五 ーアジア芸術系大学国際交流展in沖縄(沖縄)
第78回行動展 新人賞受賞(国立新美術館・東京)
2024 第15回国際シューズボックススカルプチャー展(台湾)
第4回行動美術受賞作家選抜展(東京都美術館・東京)
2025 第80回記念行動展 会友賞受賞(国立新美術館・東京)



山本恭平 YAMAMOTO Kyohei

1996 大阪府生まれ 三重県在住
2019 沖縄県立芸術大学彫刻専攻 卒業
2017 第69回沖展 うるま市長賞(沖縄)
未来とよはら彫刻展 とよはら賞(沖縄)
2018 なは市民芸術展 那覇市文化協会会長賞(沖縄)
2019 沖縄県立芸術大学 西銘順治賞(沖縄)
2022 山崎運動公園くまのスタジアム モニュメント設置(三重)



若栗由京 WAKAKURI Yuki

2001 神奈川県生まれ 神奈川県在住
2026 東北芸術工科大学大学院彫刻研究領域 修了
2023 第58回神奈川県美術展(神奈川)
2024 第59回神奈川県美術展(神奈川)
2024 第5回いりやKOUBO(東京)
2025 城南島アートフェア TUAD ART ECHOES
ー響く東北のアートー(東京)
2025 かたちあそび(山形)

